

第42回北海道建築士会全道大会(後志大会)参加報告

羊蹄山の麓ニセコにて開催された全道大会。釧路からは8名の参加です。

まずは、会場で受付を済ませ、分科会のバスに乗ります。

支部の方の説明を聴きながら、2030年に北海道新幹線が開通するという倶知安の古い町並みを眺め、ニセコの別荘地を進んでいきます。

昨年、ニセコの土地価格上昇率は全国一だったそうで、山の中で30万円/坪...と、釧路の街中よりもお高い坪単価にビックリしました。その地域は、ホテルや飲食店が立ち並び、その資本の80%以上が外国資本で、その半数以上が中国だとのこと。

同じ道民としては、少し複雑な心境になります。

その後、着いたのは、ニセコ駅の近くにある「ニセコ中央倉庫群」



ニセコ駅は 10/8 に行われるハロウィンパーティーを前に黄色いパンプキンが飾られています。比較的開拓が遅かったこの地域では、ジャガイモをはじめとする野菜の生産に適していたということで、このような石造りの倉庫が数十棟立ち並んでいたそうで、鉄道により各地へ運ばれていたそうです。そんな中、倉庫群を保存活用しようということで、木造の「旧でんぷん工場」が、リーススペースとして NPO 法人 ニセコ倉庫邑 により運営されています。



内部はカフェも併設されていますが、各種イベントやセミナー、サークルなどの活動にも貸し出され利用されているようです。当時使われていたフルイが天井に展示されているのですが...写真撮り忘れ...ご覧になりたい方はぜひ訪れてみてください。



次に、セミナーとパネルディスカッションが行われる第一倉庫へ移動。



この倉庫も、耐震補強を終え、コンサートなどのイベントに貸し出されているようで、200人くらい収容でき音響も備えられています。

パネラーのひとり、このニセコ倉庫邑館長の向田薫さん。

彼女は、札幌市立高専の建築デザイン科を卒業しているのですが、プランニングが不得手という理由で、神社仏閣など古い建物を復刻する仕事につき、金沢城の改修復元工事に携わっていたという経歴の持ち主。まだお若いのですが、とてもパワフルな方でこの倉庫群を残すためには...と、色々と健闘したそうです。

歴史的建造物を保存しながら活用するということ。そして、人を増やして町を豊かにするヒントを頂いたような気がしました。

大会参加のため会場へ。



基調講演は、ドラマ「ナポレオンの村」のモデルとなったスーパー公務員、高野誠鮮氏。

現在は定年退職されて大学などで教鞭をとってらっしゃいます。

講演は、こういう大会でのものとしてはかなり面白く、あれだけ笑い声が聴かれる講演も珍しいかもしれません。特に、普段、公務員に反感を持っている人は聞くとスッキリします(笑)と同時に、こういうことができることが羨ましくなります。無理と諦めないで、調べて学んで実践することは大切ですね。

この後、懇親会(&宿泊)のためヒルトンニセコビレッジに移動です。

ニセコは観光客が住み着く形での外国人の移住者が年々増えているようで、ハーフの子供たちも多くいそうです。確かに、普通に外国人の方を見かけ聞こえる言葉もグローバル。懇親会での催しの一つの和太鼓演奏も半分くらいがハーフ(のような)子供達でした。



普段会えない仲間との再会があり、その土地の美味しいものがあり、その土地にしかない文化に触れられる。そんな全道大会でした。